

技術分野特有の言語をキーワードとした学習のふり返し

1. 技術・家庭科における「言語活動」について

(1) 学習指導要領（技術・家庭）における「言語活動」

平成20年3月告示の「学習指導要領」には、言語活動に関するものとして、次のような記述がある。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

4 各分野の指導については、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。（「第2章各教科、第8節 技術・家庭」P98～）

(2) 本校技術・家庭科が展開をめざす「言語活動」

①技術分野

技術分野において、国語科で培った能力を基本に、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための学習活動を行う場合、設計図・回路図、フローチャートなどを含む図表やグラフ、さらには、静止画像や動画といった表現を含む記号を用いることが考えられる。そして、これらの思考活動を行う際は、利用できる言語の使い方を学ぶことが重要であると考えた。そこで、本校では、「木材や道具といった技術分野で取り上げる内容に関わる言語の意味を、体験などを通して実感する。」を技術分野言語活動の目的とし、「技術分野特有の言語をキーワードとした学習のふり返し」を意識した授業実践に取り組んだ。

②家庭分野

家庭分野において、国語科で培った能力を基本に、思考力・判断力・表現力等をはぐくむための学習活動を行う場合、生徒が興味・関心等に応じて家族・家庭や衣食住に関する課題を設定し、問題解決的学習を進めるようにすることが考えられる。さらに、計画及び実践後の評価、改善については、グループで検討したり、発表の機会を設けたりして実践の成果や課題をお

互いに学び合えるようにすることが重要であると考えた。

そこで、本校では生徒の生活実態から「食生活と自立」の分野で課題を設定し授業実践に取り組んだ。

2. 実践の姿（技術分野）

(1) 題材名：「丸太材を切断しよう」

(2) 題材のねらい（「言語活動」との関連）

・材料の特徴、工具の切断のしくみについて、技術分野特有の言語をキーワードとした学習のふり返しを書くことによって、技術分野特有の言語への理解を深める。

(3) 題材・学習材

「丸太材を利用したペン立ての製作」

(4) 題材の指導計画（3時間扱い）

【第1時】

学習目標 「両刃のこぎりで丸太材を切断してみよう」
キーワード 「固定」

小学校までの学習や生活体験からほとんどの生徒がのこぎりの使用体験がある中で、固定することが難しい丸太材の切断を通して、正確に切断するためには「しっかり固定すること」が必要であることを体験から学び、気がついたことキーワードを使ってふり返し、学習の理解を深める。

ワークシートより

・太い木は固定しても、すぐ木が動いてしまってなかなかうまく切ることができなかった。切るには、木を押さえる力が必要だった。

【第2時】

学習目標 「両刃のこぎりの名称を理解しよう」

キーワード 「たてびき」「よこびき」「あさり」

丸太材を「縦引き用の刃」「横引き用の刃」を使い

分けながら切断し、2つの刃の違いと「あさり」の役割を体験する。実践的・体験的な学習から感じたことを、キーワードを使って学習をふり返る。

ワークシートより

・前の時間よりうまく切れたと思います。2人で固定するとしっかりと動かなくなり横引きの刃は切りやすかった。なぜならば、木目を横に切っていたから。縦引き用の刃は、切りづらかった。

【第3時】

学習目標 「のこぎり引きのしかたを理解し正確に切る」
キーワード 「切り始め」「切り終わり」「ひきこみ角度」
のこぎり引きのしかたについて確認し、両刃のこぎりを安全に正しく使用して材料を正確に切断できるには、どうしたらよいかを学習する。実践的・体験的な学習から感じたことを、キーワードを使ってふり返る。

ワークシートより

・私が、気がついたことは、正確に切るためには強い力を加えればよいというわけではなく、のこ身を平行に保ちまっすぐ引く、そして軽く。
スピードは「速くなく遅くなく」を保って切ると正確に切れると思う。

※このワークシートには指導者が想定したキーワードは記されていないが、のこぎり引きのしかたをよく理解していることが伝わってくる。

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 技術分野

今回の実践で、技術分野特有の言語をキーワードに設定したことにより、技術分野特有の言語への理解が深まっただけでなく、生徒自ら学習した知識と技術などを活用して、解決策を考え出すことができるように

なってきた。これは、大きな成果であった。

課題は、言語活動を充実させるために、次のような検討が必要であると考えた。

①技術分野の目標の明確化

言語活動を充実することは重要な事項ではあるが、それだけで技術分野の目標がすべて達成できるとは限らない。そのため、まず技術分野として達成すべき目標を明確にする。

②必要となる言語活動の明確化

明確にした技術分野の目標を、言語活動を充実する目的と比較検討し、言語活動を設定すべき指導内容を明確にする。

③重視すべき言語活動の検討

限られた時間の中で技術分野の目標を達成するために、3年間を見通して、どの指導内容において、目的を持たせた言語活動を重視し実施するかを検討する。

(2) 家庭分野

今回の授業実践では、班発表をすることにより、お互いの異なる生活経験をもとに考えを広げることができた。言語活動を充実させることにより家庭分野の目標達成に多少なりとも近づくことができた。

国語科で培った能力を基本に、家庭科の特質を踏まえ、生活における課題を解決するためには、言葉だけでなく、献立表や栄養に関する基礎知識などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動も充実する必要があると思った。

日頃の限られた授業時間数の中で言語活動を充実させていくためには、技術分野同様に3年間を見通して、指導内容を明確にする必要がある。

